

校長室便り (No3) 自分自身の未来を切り拓く！

梅雨入りは早かったのですが、今のところさほど雨は降らず、このまま夏本番に入っていくのかなと思っているところです。そのような中、全日制・定時制の生徒たちは、6月の第2週と第3週にそれぞれ中間考査を終え、現在、部活動はもとより、各種検定試験等に真剣に取り組んでいます。また、通信制の生徒たちは、自宅でのレポート作成とスクーリングに励んでいます。体調管理が難しい時季ですので、それぞれが健康管理に気をつけてほしいものです。

さて、先日、ラジオを聞いていたところ、次のような話がありました。

現在、アニメの制作現場は国際的になっており、これから益々、アメリカとかアジアとか色々な国の方たちと共同作業をしながら、アニメーションを制作しなければならない。その時、必要になってくるのが語学力、そして日本語力である。ここで如何に、人の心に届く言葉を使うか、自分自身の言葉を持つか、これで未来は変わってくる。ということでした。

また、今の社会、全ての仕事はチームワークで成り立っている。一つ例を挙げると、「高畑 勲」さんというスタジオジブリのアニメ監督がいる。実はこの高畑さん、「絵は一切書けない」。なぜ、絵を一切書けない人がアニメの監督をすることができるのかというと、先に述べたように、アニメというのは共同作業でつくるものだからなのである。高畑さんはフランス文学が専門で、そのフランス文学の経験から、アニメーションの方向を、こういう方向が良いのではないか等を提案することによって、アニメを完成させているのである。他に絵が上手な人はいる。素晴らしい声優さんはいる。その人たちが繋がり、しっかりと役割分担をして、アニメを制作する。それがチームワークなのである。ということでした。

本校の生徒たちにも、学校生活をとおして、自分自身の未来を切り拓く「語学力」の向上、そして、「チームワークの素晴らしさ」を学んでほしいと思います。

ところで、定時制・通信制の生徒たちが、特別活動の時間の中で取り組んだ“生け花”を玄関や校長室に飾ってくれています。

写真は校長室に飾られたものです。普段一人でいるところですので、“生け花”があるだけで校長室が華やかに、そして、心も穏やかになります。生徒たちの心遣いに感謝です。

令和3年(2021年)6月24日



熊本県立湧心館高等学校長 打越 博臣